

文部科学省概算要求における 宇宙分野の研究開発に関する取組

宇宙基本計画(2016年4月1日閣議決定)に則り、「宇宙安全保障の確保」、「民生分野における宇宙利用の推進」、「宇宙産業及び科学技術の基盤の維持・強化」等に積極的に取り組む。

平成31年度概算要求額 1,957億円 (平成30年度当初予算額 1,516億円)

＜準天頂衛星システムに関する主な取組＞

○ 準天頂衛星等の打上げに向けたH3ロケットの開発

我が国の自立的な衛星打ち上げ能力を確保するため、官民一体となって、多様な打ち上げニーズに対応した国際競争力のあるH3ロケットを開発する(2020年度試験機1号機・2021年度試験機2号機打ち上げ予定)。2022年度から2023年度にかけて、H3ロケットにより、準天頂衛星5～7号機を打ち上げ予定。



▶ H3ロケットイメージ

○ 準天頂衛星をはじめとする宇宙システム利活用のための人的基盤・科学的基盤の強化

衛星測位等の宇宙分野の裾野拡大を目的として、宇宙航空分野の発展を支える人材育成や宇宙科学技術と異分野シーズとの融合による新たなサービスの創出に係る技術開発を推進するとともに、大学や研究機関を中心とした産学連携による宇宙連携拠点を構築する。

▶ 地理空間情報・宇宙技術に関する講義のイメージ



▲ アジア等における人材育成プロジェクトのイメージ(写真は、ネパールでの準天頂衛星を用いた災害時早期警報アプリの作成・実証の様子)

○ 測位システムの高度化等の将来を見据えた基盤技術研究

我が国の測位システムの高度化等を目指した基盤技術の研究開発を推進し、今後、大きく成長が予測されるアジア太平洋地域において、センチメートル級測位を可能とする補強信号の高精度化等にも貢献する。